

「日々新たに」(要旨)

聖書箇所：コリント人への手紙第二4章16~18節

【1】 心挫けそうになる時

本朝の聖書箇所で使徒パウロは「私たちは落胆しません」(IIコリント 4:16)と述べました。パウロはダマスコ途上で、復活のイエスと出会い、回心し、福音宣教者となりました。宣教者パウロに待ち受けていたのは、落胆してもおかしくないような数多くの苦難でした(同 11:23~27)。パウロは自分のためではなく、キリストの福音のために、命懸けで働きました。しかし感謝されるどころか、その働きが否定され、嘲笑の的となり多くの拒絶を経験したのです。そんなパウロが「私たちは落胆しません」と述べるのです。驚くべきことです。なぜそのように言えたのでしょうか？

【2】 私たちは落胆しない

パウロは、自分が経験した苦難によって、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みさえ失うほどであったと振り返っています(同 1:8)。そうした経験を経てなお、何度も立ち上がりました。彼が見ていたのは、困窮した自分自身ではなく、自分を遣わされた神様だったのです。しかもその神様は、十字架にかかって死なれたイエス・キリストをよみがえらせる力を持っているお方です。パウロはイエスを死からよみがえらされた神が、イエスと共に自分をよみがえらせてくださることを思い起こし、励ましを受けていたのです(同 4:15)。

オリンピック選手が過酷なトレーニングを続けることができるのは、その先にある勝利の栄冠を目指しているからでしょう。パウロは私たちの目から見れば、とても耐えられないように見える苦難さえ、「一時の軽い苦難」と呼び、「重い永遠の栄光」を受ける日を楽しみにしていました。パウロは苦難においても神の約束に支えられ、

落胆することなく、希望に心を躍らせていたのです。

【3】 日々新たに

「私たちは落胆しません」は、パウロの告白であると同時に、私たち信仰者の告白でもあります。そして本朝の聖書箇所は、信仰者の目標を明らかにしています。信仰者の目標は、今自分を落ち込ませる様々なことではなく、目に見えないもの、神様の約束に注目し、それに信頼して歩むことです(同 4:17~18)。

パウロは私たちの「外なる人」すなわち肉体は衰えると述べます。しかしそうした衰えは、私たちのすべての状態をあらわしているわけではありません。永遠の栄光を目指して歩む人すなわち「内なる人」は、衰えるどころか、日々新たにされるからです。そうです。日々キリストに似た者とされるように、そして最終的にはキリストの姿にまで成長することを私たちは目指しているのです(参照同 3:18, エペソ 4:13~15)。

▷今日も私たちが神様の約束を信じて持ち望む時、神様は私たちに新しい力を与えてくださいます(イザヤ 40:27~31)。そして神様は今日もあなたの「内なる人」が成長し、キリストの身丈に近づくことを期待しておられます。

「ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」(IIコリント 4:16)

